

復刊に寄せて

志村 晶

理学電機株式会社社長

国内外の多くの方々の御支援、御鞭撻により、おかげさまをもちまして、弊社は昭和26年創立以来、27年目を迎えております。

この間、わが国最初のユニット型の金属性真空配管を有するX線回折装置（D-1F）をはじめ、自動記録式X線回折装置（ガイガーフレックス）、更に最近では、世界でも類のない超強力X線発生装置RU-1500など、新技術、新製品の開発に全力を傾注してまいりました。これ偏に皆様の御愛顧の賜と感謝いたしております。

昭和48年11月の石油ショックを契機として、昭和30年代より続いた高度成長時代も終焉を迎え、近頃は経済の低成長に伴う技術革新の低速を心配する声さえ聞かれるようになってきております。しかしながら、一方では急速な産業構造の変化、エネルギー問題をはじめ、省力、省資源、そして更には環境保全の問題が一段とクローズアップされてきており、これによりX線分析、熱分析の分野におけるニーズもますます多様化、高度化してきております。かような情勢下において弊社といたしましては、新しい社会のニーズに十分対応すべく、今後もより一層の努力を続けてまいる所存でございます。

さて、昭和34年1月に創刊いたしました“理学ジャーナル”は第1号より第30号まで多くの方々に御愛読いただきながら、昭和42年以来休刊いたしました。その後、多くの方々より“復刊希望”の御意見を頂戴いたし、弊社内でも検討した結果、このたび“理学ジャーナル”復刊のはこびとなりました。

本ジャーナルを需要家の方々と私共メーカーをつなぐ血の通ったベルトにし、また数多くの実際の応用例の御紹介を通じて多様化する技術の交流の場として、少しでも皆様のお役に立てれば光栄に存じます。

当面は年2回発行の予定でございますが、本ジャーナルを皆様の御期待にお応えできるものにすべく、一層の努力を重ねる所存でございますので、今後とも引き続き御愛読いただきますようお願い申し上げます。

